

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2015年第1四半期 決算説明資料

2015年5月8日発表

取締役 常務執行役員 CFO
武藤 三郎

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社(前期末対比)

■ 連結子会社：48社

+4社

上海昭和電子化学材料有限公司
 上海昭和高分子有限公司
 ショウワ・スペシャルティガス・シンガポール
 ショウティック・マレーシア SDN.BHD.

△1社

昭炭商事(株)

■ 持分法適用会社：13社

+1社

PT. インドネシア・ケミカル・アルミナ

主要諸元

(期中平均)

	2014年1-3月	2015年1-3月	増減
■ 為替レート (円/US\$)	102.8	119.1	16.3 円安
■ 国産ナフサ (円/KL)	72,000	47,000	△25,000
■ アルミ地金			
LME (US\$/T)	1,752	1,814	62
国内市況 (千円/T)	244	308	64

※2014年12月期末レート120.6 円 2015年3月期末レート120.2 円 ⇒0.4 円高

連結業績の概要

(億円)

	2014年1-3月	2015年1-3月	増減
売上高	2,096	1,932	△165
営業利益	76	39	△37
営業外損益	△10	△11	△1
金融収支	△6	△7	△1
持分法投資損益	6	5	△1
為替差損益	△1	△9	△8
その他	△10	0	9
経常利益	66	28	△38
特別利益	7	0	△7
特別損失	△10	△152	△141
税金等調整前四半期純利益	63	△124	△186
法人税等	△49	△24	25
少数株主損益	△4	72	76
四半期純利益	9	△75	△85

特別損益の内訳

(億円)

	2014年1-3月	2015年1-3月	増減
■特別利益	7	0	△7
●投資有価証券売却益	7	0	△7
●その他	0	0	0
■特別損失	△10	△152	△141
●固定資産除売却損	△3	△9	△6
●貸倒引当金繰入額	—	△128	△128
●その他	△7	△15	△8
■特別損益	△3	△151	△148

連結売上高差異内訳

(億円)

	2014年 1-3月	2015年 1-3月	増減	項目
石油化学	621	571	△49	オレフィン: 減収(ナフサ価格急落の影響) 有機: 増収(酢ビ、酢エチ: 数量増)
化学品	334	348	13	基礎化学品: 減収(AN: 市況低下、アンモニア: 数量減) 産業ガス: 前年同期並み 情報電子化学品: 増収(数量増) 機能性化学品: 増収(上海昭和高分子: 新規連結)
エレクトロニクス	372	330	△43	HD: 減収(数量減) 化合物半導体: 前年同期並み レアアース: 減収(数量減)
無機	160	157	△3	セラミックス: 前年同期並み 電極: 前年同期並み
アルミニウム	212	231	18	圧延品: 増収(コンデンサー用高純度箔: 地金高による価格上昇) 機能部材: 小幅増収 アルミ缶: 増収(ハナキャン社: 前年2Qに新規連結)
その他	498	406	△92	リチウムイオン電池材料: 増収(数量増) 昭光通商: 減収(中国関連事業)
調整額	△101	△111	△10	
合計	2,096	1,932	△165	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2014年 1-3月	2015年 1-3月	増減	項目
石油化学	△1	△17	△17	オレフィン:減益(ナフサ価格急落の影響) 有機:増益(酢ビ、酢エチ:数量増)
化学品	10	21	12	基礎化学品:増益(クロロプレンゴム、AN) 産業ガス、機能性化学品:前年同期並み 情報電子化学品:増益(数量増)
エレクトロニクス	81	54	△27	HD:減益(数量減) 化合物半導体:前年同期並み レアアース:前年同期並み
無機	△4	△3	2	セラミックス:前年同期並み 電極:小幅増益
アルミニウム	9	2	△7	圧延品:小幅増益 機能部材:小幅減益 アルミ缶:減益(地金高)
その他	2	1	△1	リチウムイオン電池材料:増益(数量増) 昭光通商:減益
調整額	△21	△19	2	
合計	76	39	△37	

連結貸借対照表

(億円)

資産	2014年 12月末	2015年 3月末	増減	負債・純資産	2014年 12月末	2015年 3月末	増減
現預金	668	601	△67	営業債務	1,272	1,039	△233
営業債権	1,569	1,308	△261	有利子負債	3,831	4,050	219
たな卸資産	1,236	1,226	△10	退職給付に係る負債	221	162	△60
その他	331	354	23	その他	1,581	1,368	△213
流動資産計	3,804	3,490	△315	負債計	6,906	6,618	△287
建物・構築物	859	869	10	資本金	1,406	1,406	0
機械装置・運搬具	1,199	1,204	5	資本剰余金	622	622	0
土地	2,541	2,541	0	利益剰余金	575	471	△104
他有形固定資産	537	553	17	自己株式	△102	△102	0
有形固定資産計	5,137	5,168	31	株主資本計	2,501	2,397	△104
無形固定資産	137	135	△2	その他有価証券評価差額金	68	93	25
投資その他の資産	1,033	968	△65	為替換算調整勘定・繰延ヘッジ損益	203	221	18
(内、投資有価証券)	761	795	34	土地再評価差額金	279	315	35
				退職給付に係る調整累計額	△49	△21	28
				その他の包括利益累計額合計	501	607	107
				少数株主持分	203	137	△66
固定資産計	6,306	6,271	△36	純資産計	3,205	3,142	△63
資産合計	10,111	9,760	△351	負債・純資産合計	10,111	9,760	△351

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2014年12月末	2015年3月末	増減
■ 総資産	10,111億円	9,760億円	△351億円
■ 有利子負債	3,831億円	4,050億円	219億円
■ D/Eレシオ	1.20倍	1.29倍	0.09p増
■ 自己資本比率	29.7%	30.8%	1.1p増

2015年上期業績予想

(億円)

	2015年 1-6月予想 (2月12日公表)	2015年 1-6月予想 (5月8日公表)	増減	2014年 1-6月 実績
売上高	4,300	4,030	△270	4,134
営業利益	100	130	30	105
経常利益	75	110	35	72
四半期純利益	20	△20	△40	△34
1株当たり四半期純利益	1円40銭	△1円40銭	△2円80銭	△2円30銭

セグメント別上期売上高予想(連結)

(億円)

	2015年 1-6月予想 (2月12日公表)	2015年 1-6月予想 (5月8日公表)	増減	2014年 1-6月 実績
石油化学	1,220	1,170	△50	1,197
化学品	740	720	△20	673
エレクトロニクス	730	700	△30	695
無機	370	330	△40	333
アルミニウム	520	520	0	458
その他	900	810	△90	991
調整額	△180	△220	△40	△215
合計	4,300	4,030	△270	4,134

セグメント別上期営業利益予想(連結)

(億円)

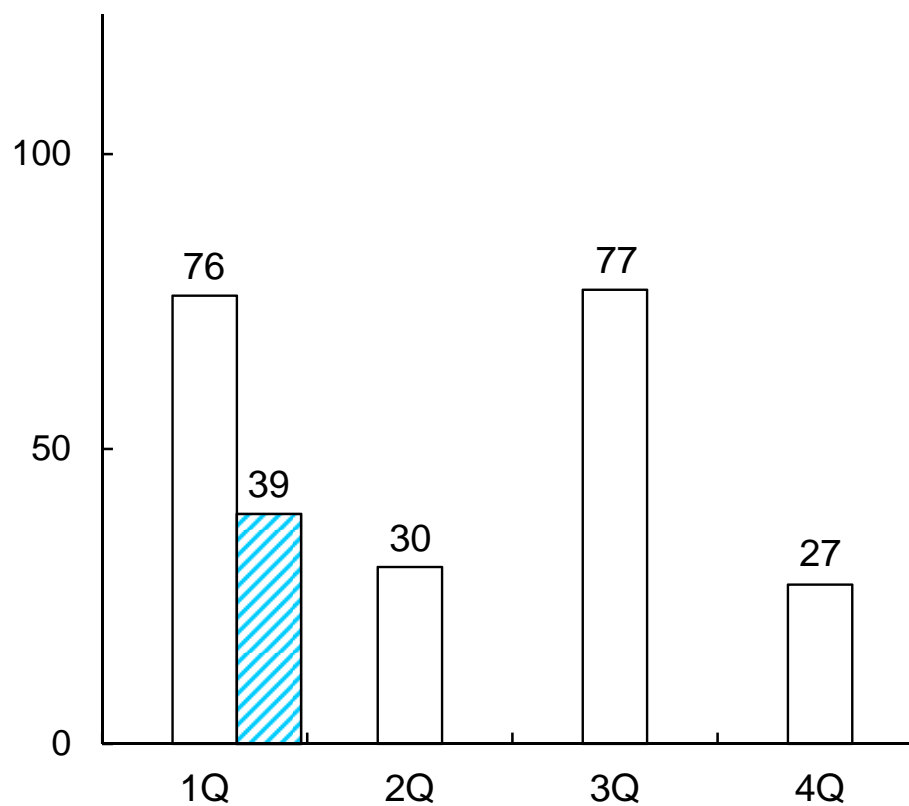
	2015年 1-6月予想 (2月12日公表)	2015年 1-6月予想 (5月8日公表)	増減	2014年 1-6月 実績
石油化学	△25	20	45	△19
化学品	25	35	10	14
エレクトロニクス	125	120	△5	132
無機	5	△5	△10	△8
アルミニウム	10	5	△5	18
その他	0	0	0	3
調整額	△40	△45	△5	△35
合計	100	130	30	105

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

■ 全 社

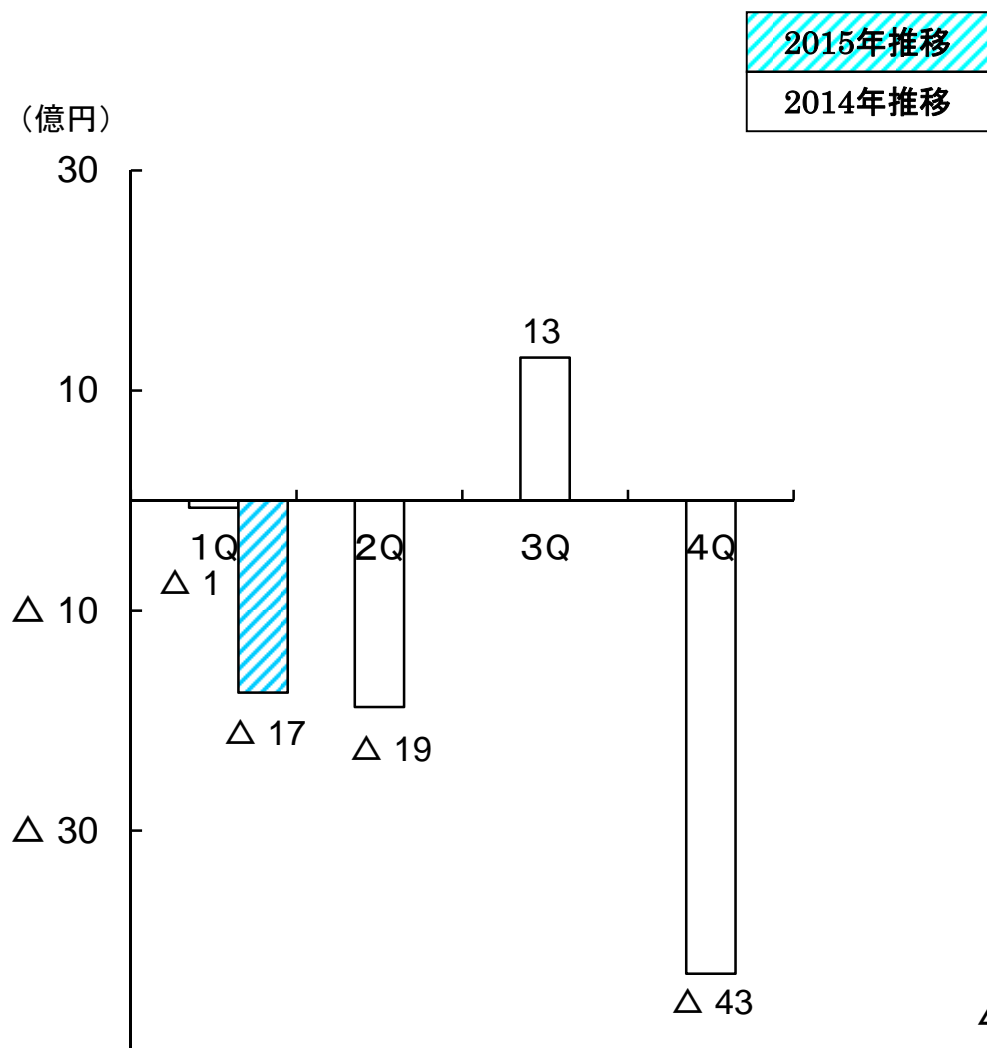
2015年推移
2014年推移

(億円)

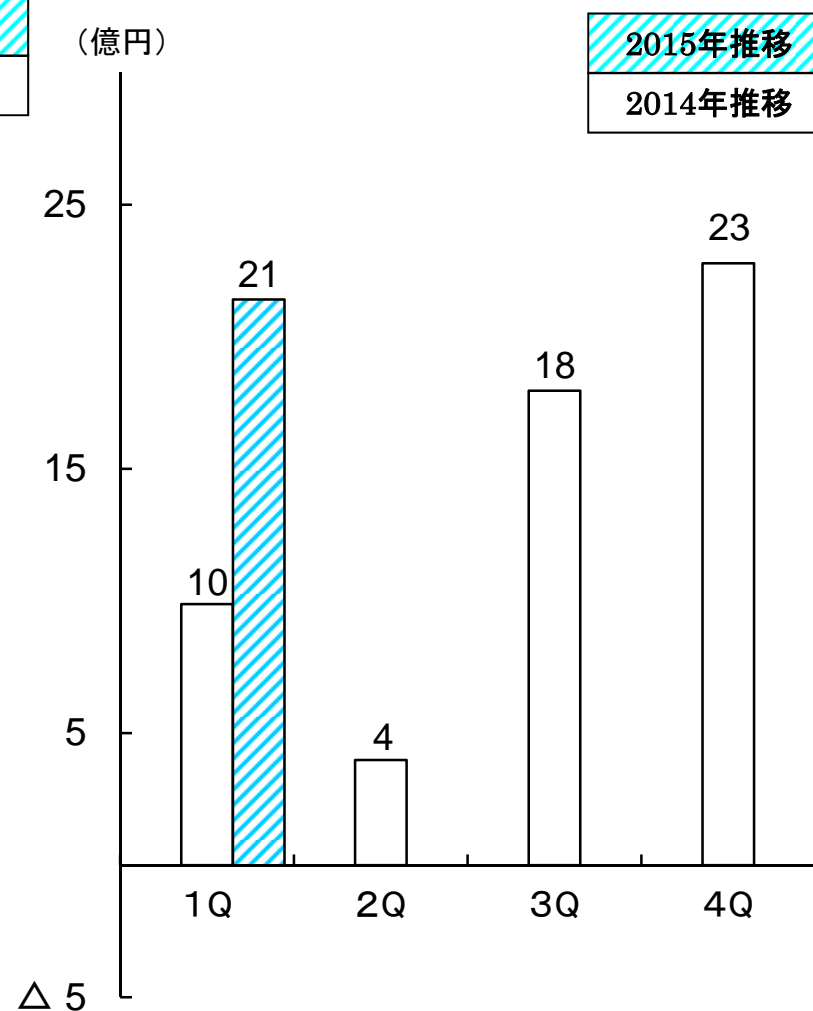


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■石油化学セグメント

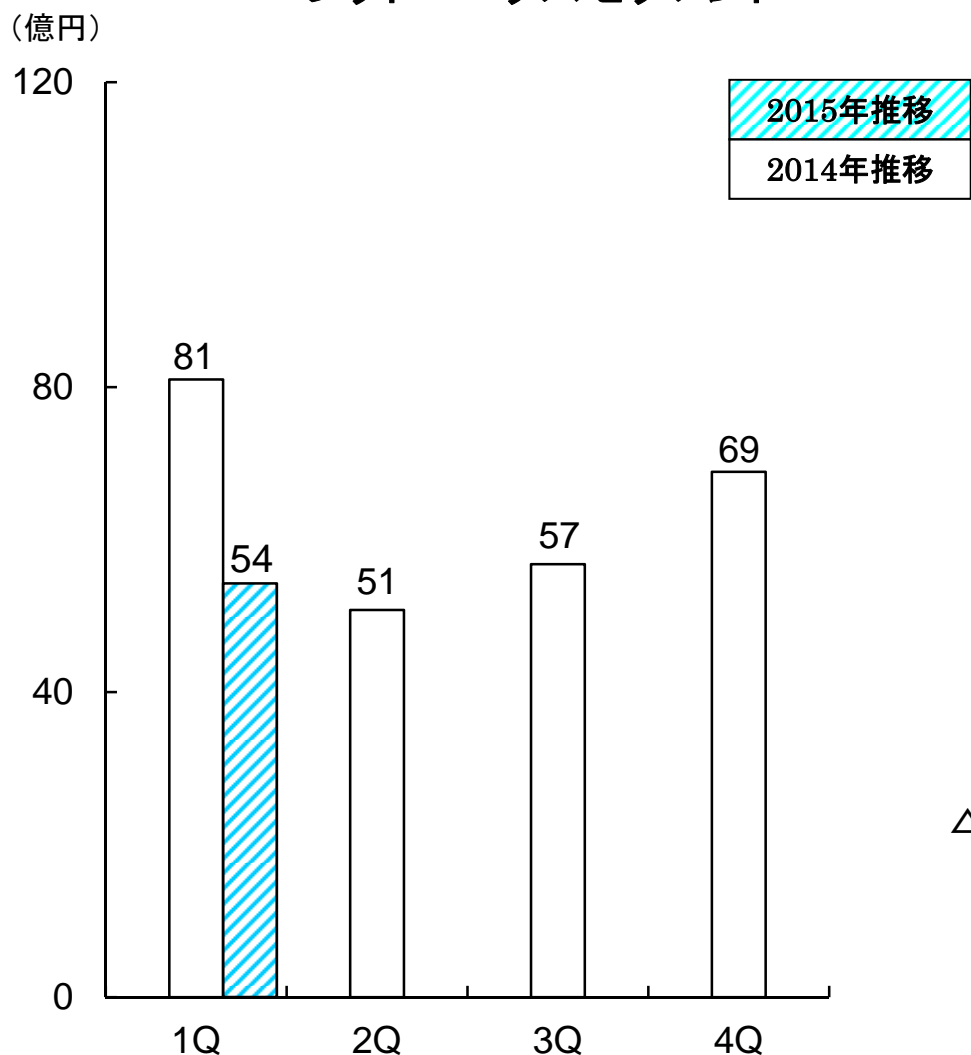


■化学品セグメント

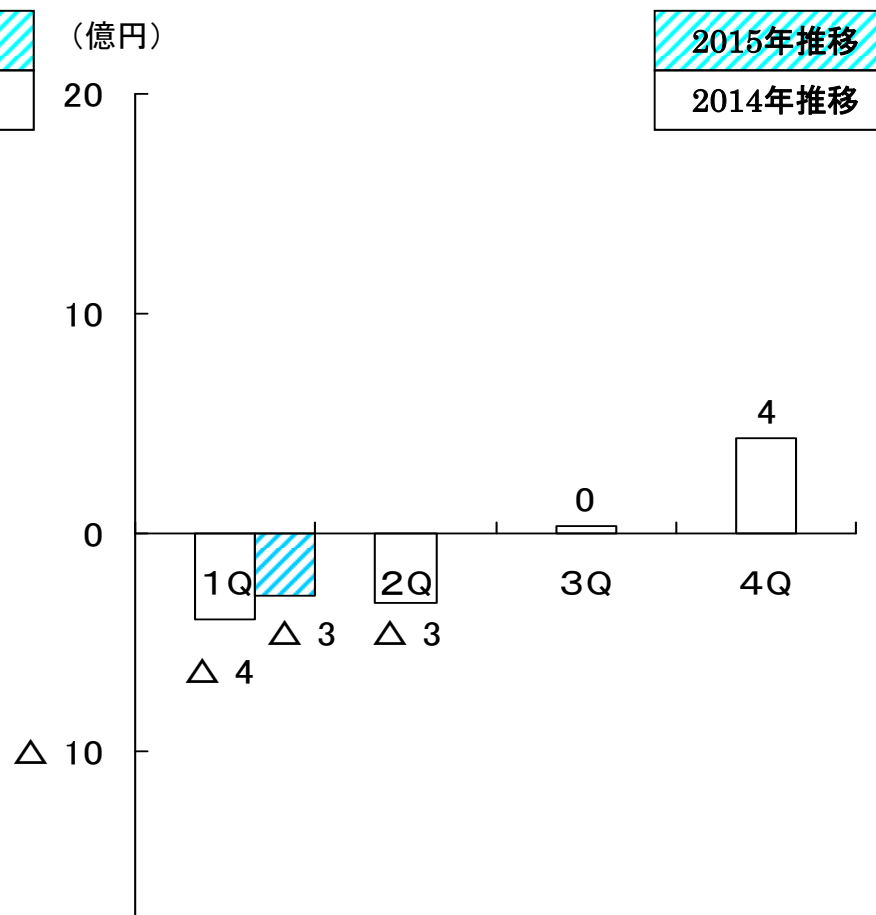


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■エレクトロニクスセグメント

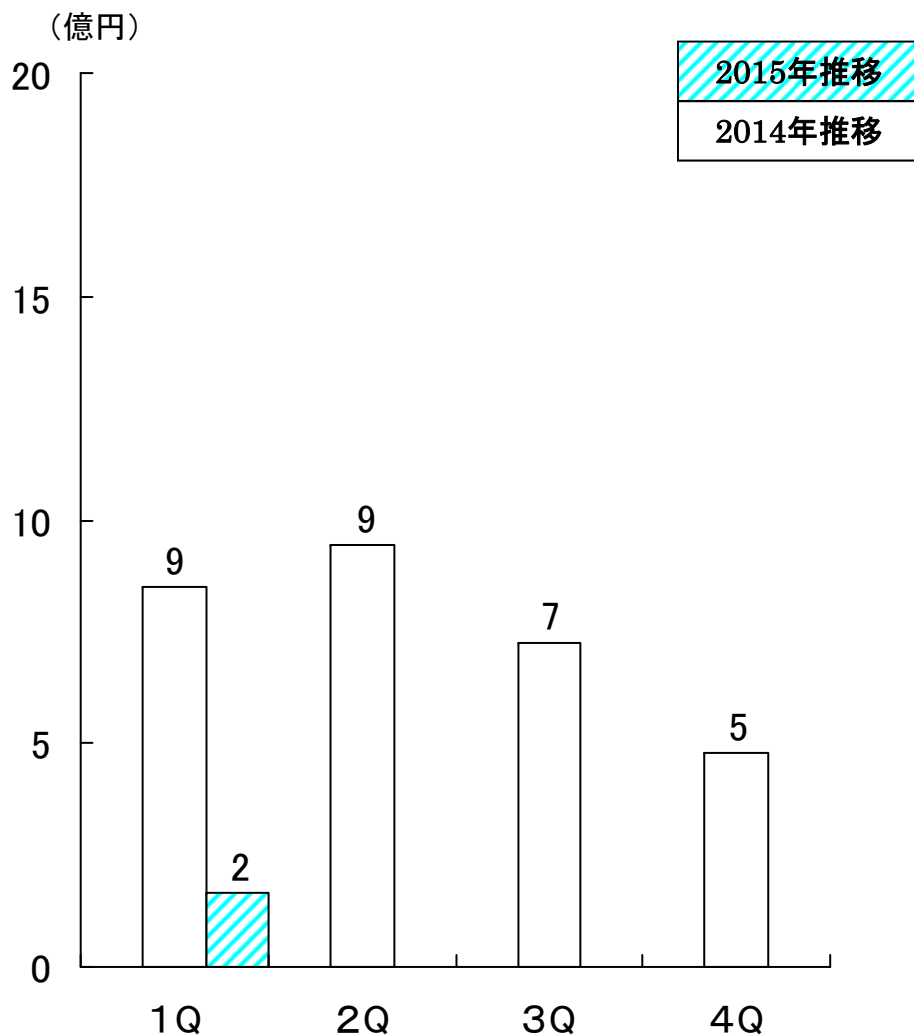


■無機セグメント

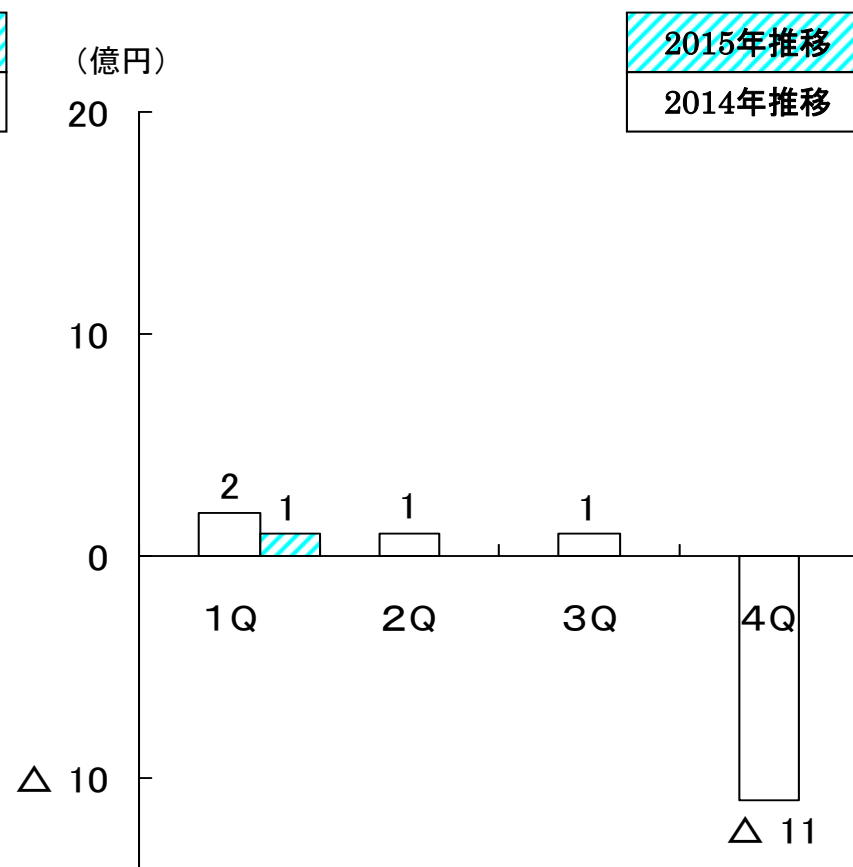


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



セグメント別トピックス

【全社施策】

●資源有効利用促進等資金利子補給金制度に基づく借入を実施

川崎事業所において、アンモニア生産に必要な使用済みプラスチックのガス化設備の増強を進めている。本投資が、資源有効利用と循環型社会形成に寄与するとして、経済産業省の「2014年度資源有効利用促進等資金利子補給金事業」^(注)に認定され、本年1月、その投資を対象とした融資を(株)日本政策投資銀行より受けた。使用済みプラスチックのガス化設備の増強により、アンモニア原料となる水素の製造において、使用済みプラスチック利用率を60%以上に高めることが可能となる。使用済みプラスチックを原料の一部に使用した液化アンモニア「エコアン[®]」は、電力会社からグリーン調達品として認定を受けるなど、高い評価を得ている。

(注)資源有効利用促進等資金利子補給金事業とは、金融機関が行う資源の有効利用促進に係る設備投資向けの融資に対し、国が利子補給を実施し再生資源の利用の促進等を図ることを目的とするもの。

【石油化学セグメント】

●アセチルチェーン製造プロセスのライセンス販売について米社と提携

当社が開発した酢酸および誘導品(アセチルチェーン)の製造技術について、米国のエンジニアリング会社であるKBR社(テキサス州)と共同で販売する業務提携契約を締結した。

アセチルチェーンの事業展開により長年培ってきた独自の触媒・プロセス技術や運転技術・ノウハウをKBR社にライセンス提供し、同社が保有する販売網を活用することで当社技術のライセンス機会の拡大を図る。

【化学品セグメント】

●熱硬化性成形材料事業 中国第2生産拠点設立を決定

本年2月、熱硬化性成形材料(BMC^(注))事業の強化を図るため、合成樹脂材料メーカーの長興材料工業股份有限公司(本社:台湾高雄市)と合併で、当社グループとして中国で2番目となる生産拠点を広東省珠海市に新設することを決定した。

現在、当社グループのBMC事業は日本、上海、タイに生産拠点を有しているが、BMCの出荷予想として中国市場は年平均15%増が見込まれ、上海拠点の供給能力を上回ることから、生産拠点を新設し拡大する中国市場における供給体制を強化する。

(注)BMC(Bulk Molding Compound):主成分の不飽和ポリエステル樹脂にガラス繊維などを混練した熱硬化性成形樹脂。
主用途は自動車向けランプリフレクターやエンジンカバー、家電・精密部品の封止材等。

●高純度亜酸化窒素の韓国製造拠点増強を完了

高純度亜酸化窒素(N_2O)の供給能力を拡大するため、(株)斗岩産業(本社:韓国京畿道安城市)と共同でソウル近郊の同社工場内に精製設備の建設を進めていたが、本年年初に竣工させ3月より本格運転開始した。

今回の増強により当社グループの N_2O 年産能力は日本1,200トン、韓国600トンの計1,800トンと1.5倍に拡充された。 N_2O は半導体・LCD製造プロセスにおける酸化膜形成用の高純度ガスとして年率10%以上の拡大を見込む。

半導体高純度ガスを「成長」事業と位置づけ、今後もアジア地区を中心に生産、デリバリー拠点の拡充に注力していく。

セグメント別トピックス

【エレクトロニクスセグメント】

- 世界最大記録容量となる750ギガバイトの2.5インチハードディスクを量産開始

本年3月に、2.5インチサイズとして世界最大記録容量^(注)となる750ギガバイト(垂直磁気記録方式で第8世代)のハードディスクの出荷を開始した。

世界最大のハードディスク外販メーカーとして、750ギガバイト製品に続く次世代1テラバイト製品の開発を本格化させるなど高容量化をリードするとともに、大記録容量のハードディスクの安定供給に努め、HDD業界のお客様のご期待に応えていく。

(注)2015年2月5日現在(当社調査)

【無機セグメント】

- インドネシア アルミナ工場が本格稼働

当社およびインドネシア・アンタム社の合弁会社であるインドネシア・ケミカル・アルミナ社(インドネシア西カリマンタン州)は、本年2月に商業運転を開始した。

ケミカル用アルミナはエレクトロニクス製品の材料、水質浄化剤、研削材、放熱材など幅広い産業分野で使用されている。

【アルミニウムセグメント】

- ミルク入りコーヒー用アルミ缶の供給を開始

当社子会社である昭和アルミニウム缶(株)は、小山工場(栃木県)にコーヒー向けアルミ缶の製造設備を新設し量産を開始した。

現在、国内コーヒー缶市場は年間100億缶程度の規模で、そのほとんどにスチール缶が使用されている。前年の飲料業界のガイドライン変更に伴い、ミルク入りコーヒー製品へのアルミ缶採用が認められた。

アルミ缶は軽量でリサイクル性が高いため、今後さらに普及していくことが期待できる。

セグメント別トピックス

【アルミニウムセグメント】

- 高純度アルミ箔の中国製造拠点増強を完了

当社子会社「昭和電工アルミ(南通)有限公司」(以下、SDAN)は、本年4月、アルミ電解コンデンサー向け高圧用高純度アルミ箔^(注)の中国での月産能力を400トンから600トンに引き上げる増強工事を完了、量産を開始した。

アルミ電解コンデンサーは家電製品、IT機器、EV・HV等幅広く使用され、特に中国ではエコカーや太陽光発電のパワーコンディショナー向け等、中高圧型の需要が伸長している。

中国国内のお客様へタイムリーに高圧用箔を供給する拠点として、今後ともSDANの強化を進めていく。

(注)アルミニウムの純度が99.99%以上の電解箔、200V以上の耐電圧性を有す。

【その他セグメント】

- リチウムイオン電池の小型化に貢献する外装材の開発に成功

当社子会社の昭和電工パッケージング(株)は、ラミネート型リチウムイオン電池の包材であるアルミラミネートフィルム(以下、ラミフィルム)に導電性を持たせ、電極とラミフィルムを一体化させた外装材を開発した。

正負極構造をラミフィルム自体に持たせることで、電気を外部へ送るためのタブリードが不要となり、電池の小型軽量化を可能とするとともに、タブリード周辺からの電解液漏れを防止し、放熱性も向上させた。加えて、従来の正負極金属層が不要となる事から、従来比50%以上薄い超薄型電池の製造が可能となる。本外装材は、薄型電池製品への搭載のほか、駆動型製品などへの応用が期待される。

- 植物工場の海外展開において山口大学と連携協定を締結

当社と国立大学法人山口大学は、本年3月、共同で開発したLEDを用いた高速栽培技術「SHIGYO[®]法」および関連する研究成果の海外への技術展開に関する連携協定を締結した。

SHIGYO[®]法は、植物育成に最適な光を照射することで植物の生育を加速させる技術である。最適な光の照射方法は品種や生育環境によって異なり、海外での事業展開においてはSHIGYO[®]法導入後の技術支援が課題であったが、今後、山口大学とともに海外各国の研究機関と連携することにより、それぞれの地域特性に応じた植物工場の普及、発展に寄与していく。